

# 平成29年度「全国学力・学習状況調査」結果(市の概要)について

平成29年度の本市の結果は、以下のとおりです。  
本調査結果は、学力・学習状況の特定の一部であることを踏まえてご覧ください。

## 1 調査の概要

### (1) 調査の目的

- ア 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- イ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ウ 上記のア、イの取組等を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### (2) 調査の実施学年・実施学校数・実施児童生徒数

学校種	実施学年	実施学校数			実施児童生徒数		
		本市	県(公立)	全国(公立)	本市	県(公立)	全国(公立)
小学校	6年生	78校	501校	19,456校	5,053人	13,986人	999,723人
中学校	3年生	39校	221校	9,539校	4,982人	13,762人	982,811人

### (3) 調査の内容

- ア 教科に関する調査(調査対象：小学校6年生、中学校3年生)  
国語A・B、算数・数学A・B (Aは「知識」、Bは「活用」に関する問題)
- イ 質問紙調査(調査対象：小学校6年生、中学校3年生、小・中学校)  
生活習慣や学習環境等に関する調査

### (4) 調査日

平成29年 4月18日(火)

## 2 教科の区分(A「知識」とB「活用」)に関する調査結果

(平均正答率・・・児童生徒の正答数の平均を設問数で割った値の百分率)

### (1) 小学校(調査対象：6年生)の平均正答率(%)

教科 区分	国 語		算 数	
	A「知識」	B「活用」	A「知識」	B「活用」
本市	77	57	81	47
県	75	55	79	45
全国	75	58	79	46

### (2) 中学校(調査対象：3年生)の平均正答率(%)

教科 区分	国 語		数 学	
	A「知識」	B「活用」	A「知識」	B「活用」
本市	77	73	65	48
県	75	70	61	46
全国	77	72	65	48

小6は、国語A、算数A、算数Bで全国を上回ったが、国語Bがやや下回っている。中3は、国語Bでやや上回り、国語A、数学A、数学Bは同じである。

## 3 質問紙調査結果

(児童生徒及び学校に対する質問から特徴的なものを抜粋、単位は%)

### (1) 児童生徒に対する質問【質問数 小学校92問 中学校94問】

(質問文は一部省略)

家の人(兄弟姉妹を除く)と将来のことに ついて話すことがありますか。 ※ 「よく話す」「時々話す」と回答した児童 生徒の割合	小学校	中学校	
	本市	55	69
	県	53	69
全国	50	61	

地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか。 ※ 「参加したことがある」と回答した児童生徒の割合		小学校	中学校
	本市	55	60
	県	55	59
	全国	35	50

国語、算数・数学の勉強は好きですか。 ※ 「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合	国	小学校	中学校	
		本市	55	59
		県	55	58
	全国	61	61	
	算数・数	小学校	中学校	
		本市	70	58
県		70	56	
全国	66	55		

本市の児童生徒は、家の人と将来のことを話したり、地域社会などでボランティア活動に参加したりしたと回答した割合が、全国に比べ高い。  
算数・数学を好きと回答した割合は、全国に比べ高いが、国語については、低い。

(2) 学校に対する質問【質問数 小学校 111問 中学校 109問】

(質問文は一部省略)

授業において、コンピュータ等を活用した授業を行いましたか。 ※ 「週1回以上」「月1回以上」と回答した学校の割合	国	小学校	中学校	
		本市	78	44
		県	68	32
	全国	45	25	
	語算・数	小学校	中学校	
		本市	86	72
県		74	52	
全国	55	39		

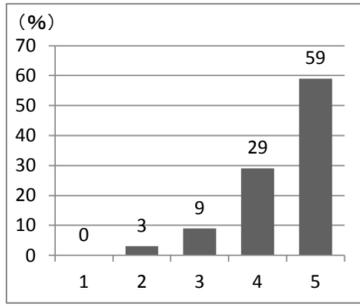
様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか。 ※ 「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合		小学校	中学校
	本市	98	79
	県	95	89
全国	96	94	

教育課程表について、各教科の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか。 ※ 「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した学校の割合		小学校	中学校
	本市	90	85
	県	88	80
全国	86	78	

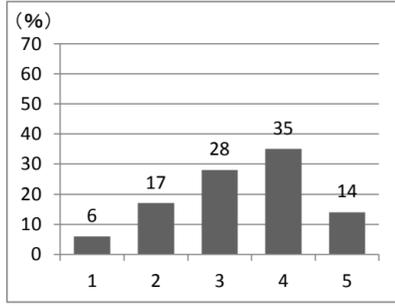
国語や算数・数学の授業で、コンピュータ等を活用した授業を行ったり、教育課程表について、各教科の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成したりしていると回答した学校の割合は、全国、県に比べ高い。様々な考えを引き出したり、思考を深めたりする発問や指導を行ったと回答した学校の割合は、小学校は全国より高く、中学校は全国より低い。

# 平成29年度「全国学力・学習状況調査」結果正答分布グラフ、課題、改善策

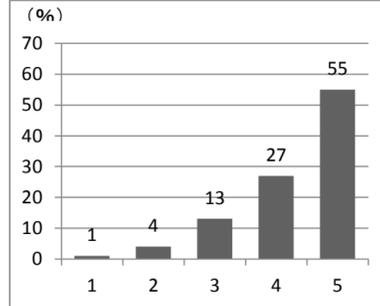
## 【小学校】 〔国語A〕



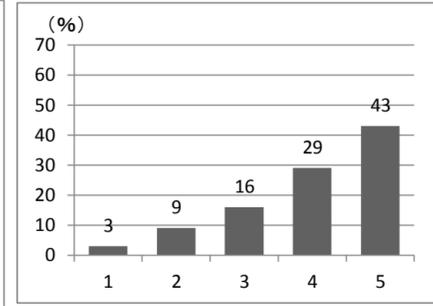
## 〔国語B〕



## 【中学校】 〔国語A〕



## 〔国語B〕



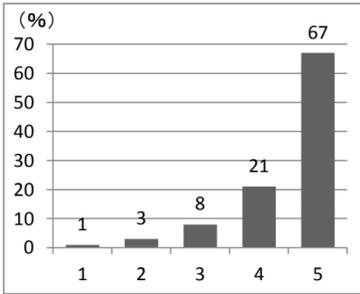
### 〈課題〉

・5段階の分布状況については、全国とほぼ同じ傾向が見られる。A問題の4、5段階は88%、B問題は49%であることから、基礎・基本は定着している状況であるが、活用する力は不十分である。  
・話の構成を工夫して話すことができるなどのスピーチメモのよさを捉えることに課題がある。

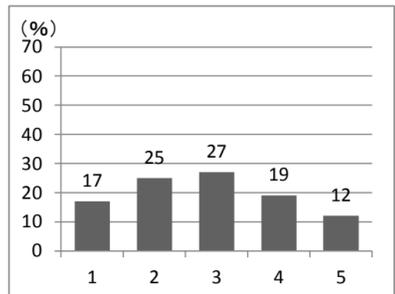
### 〈課題〉

・5段階の分布状況については、全国とほぼ同じ傾向が見られる。A問題の4、5段階は82%、B問題は72%であることから、基礎・基本の定着状況に比べると活用する力はまだ十分とは言えない。  
・古典には様々な種類の作品があることを知ることに課題がある。

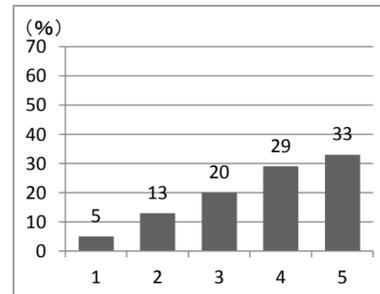
## 〔算数A〕



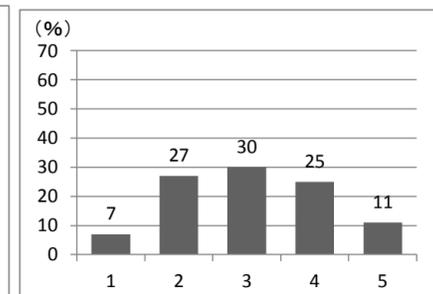
## 〔算数B〕



## 〔数学A〕



## 〔数学B〕



### 〈課題〉

・5段階の分布状況については、全国とほぼ同じ傾向が見られる。A問題の4、5段階は88%であり、基礎・基本は定着しているが、B問題の4、5段階は31%、2、3段階は52%であり、中・下位層の活用する力を伸ばしていくことに課題が見られる。  
・整数の除法の結果は、分数を用いると常に一つの数として表すことができることを理解することに課題が見られる。  
・示された条件を基に、適切な式を立てることに課題が見られる。

### 〈課題〉

・5段階の分布状況については、全国とほぼ同じ傾向が見られる。A問題の1、2段階は18%であり、B問題の1～3段階は64%であることから、基礎・基本及び活用する力ともに不十分である。  
・与えられた一次関数の表において、変化の割合の意味をきちんと理解することに課題が見られる。  
・図形の性質を考察する場面において、事柄が成り立つ理由を筋道を立てて考え証明することに課題が見られる。

## 【改善策】

今後、本市の学力向上施策(『確かな学力』の育成)のうち、以下に示す事項について、重点として取り組んでいく。  
○ 「市中学校かごしま学力向上プログラム」の拠点校・推進校の支援や指導・助言、管理職研修会、教科別研修会等を充実させ、「分かる・できる」授業づくりを通して教職員の指導力向上を図る。  
○ 全国学力・学習状況調査結果分析を各学校へ情報提供し、授業改善や個に応じた指導の充実を図らせるなど、各学校でPDCAサイクルの充実がなされるよう、見届けまでの指導を確実に行う。  
○ 全国学力・学習状況調査や「かごしま学力向上Webシステム」の問題等を各学校の年間指導計画に位置付けさせるなど、具体的な活用がなされるよう支援や指導・助言を行う。

また、以下の内容を各学校の学力向上策として、特に重点的に取り組むよう指導する。

- 〔小学校〕(国語科) ・スピーチメモを活用した話し合い活動の工夫
  - ・意見を交換しながら、句に込められた季節や風情、思いなどについて考える活動の工夫
- (算数科) ・除法の被除数、除数の商の分子、分母の関係を、図や半具体物の操作と関連付けながら理解させる指導の工夫
  - ・児童自らが数量の関係を見いだすことができる問題設定や見いだした数量の関係が、ほかの場合でも成り立つかどうかを確かめるような学習活動の工夫
- 〔中学校〕(国語科) ・古典の原文に加え、現代語訳や解説した文章などを取り上げるなど、古典の世界に積極的に関わられるような工夫
  - ・楷書と行書の違いについて、点や画の方向及び止めや払いの形の変化や、点画の連続や省略、筆順の変化などを意識しながら書く活動の工夫
- (数学科) ・一次関数について、表、式、グラフを相互に関連付けて考えさせる学習活動の工夫
  - ・証明の必要性和意味及びその方法について理解させる指導の工夫
- 〔全 体〕 ・「まとめ」に対応し、児童生徒に主体的な問題解決を促す学習課題(学習問題)の設定
  - ・「思考・判断を促す発問」、「自分の考えを相互に説明する活動」、「思考過程が分かる構造的な板書」に関連付けた指導の工夫による思考力・判断力・表現力の育成
  - ・調べたり文章を書いたりするなどの「宿題」(家庭学習)の充実(特に言語活動の充実を図るための家庭学習の工夫)
  - ・他者の話を聞く態度など学習態度の育成(学校と家庭での習慣付け)

# 学力調査分析（国語、算数・数学）

## 1 調査の結果から見える本市国語科教育の課題について

	【全国との比較】
小学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>話の構成を工夫して話すことができるなどのスピーチのよさを捉える。 B問題1二【▲3.5】</li> <li>グループの話合いを通して見付けた俳句のよさを通過して適切なものを選択する。 A問題4二【▲1.4】</li> <li>古文における言葉の響きやリズムを楽しむながら読む。 A問題6 【▲1.2】</li> </ul> ※ 物語を読み、具体的な叙述を基に理由を明確にし、自分の考えをまとめる。 B問題3三【+2.6(記述)】 無答率 12.9%【+7.0】
中学校・小中共通	<ul style="list-style-type: none"> <li>古典には様々な種類の作品があることを知る。 A問題9七2【▲6.1】</li> <li>行書の特徴を理解する。 A問題9六2【▲4.8】</li> <li>相手に分かりやすいように語句を選択して話す。 A問題7一【▲3.1】</li> </ul> ※ 表現の仕方について捉え、自分の考えを書く。 B問題1三【+3.2(記述)】 無答率 11.4【+2.9】

◎ 記述の問題においては、小、中ともに全国より無答率が少なく、正答率も高い。

1 国語科の調査結果  
 小学校においては、A問題で全国を上回ったが、B問題がやや下回っている。  
 中学校においては、A問題は全国と同じで、B問題は、やや上回っている。  
 平成二十八年度と比較すると、小学校のB問題以外は、全国比が上がった。  
 「読むこと」は前年度、小学校B問題だけが全国平均を上回ったが、今年度は、小A・B問題、中B問題で上回った。  
 2 本市国語科の課題  
 ・ 話の構成を工夫して話すことができるなどのスピーチメモのよさを捉えることに課題がある。  
 ・ 古典には様々な種類の作品があることを知ることに課題がある。

項	小学校		中学校	
	A	B	A	B
本市正答率	77	57	77	73
全国正答率	75	58	77	72
全国比(H28)	+2 (+1.2)	-1 (+1.5)	0 (-0.4)	+1 (-0.3)

### 3 課題を示す特徴的な問題

【小学校B問題1二】  
 《話の構成を工夫して話すことができるなどのスピーチメモのよさを捉える問題》

1 石田さんは、日本語を学んでいる外国人の人たちに、「折り紙」について紹介するスピーチをするため、友達に助言してもらいながら練習しています。次は、「スピーチメモ」、「スピーチの練習の様子」、「グループの話し合いの様子」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【スピーチメモ】

- 折り紙とは（紙を折って、いろいろな形を作る遊び）
- 自分の経験（実際に「つる」を見せる）
- 折り紙の例（風船「紙飛行機」「手裏剣」など）
- 折り紙のメリットは（「いつでもどこでも紙を折って、いろいろな形を作ることができること」）
- まとめ（挨拶コーナーのしようか）

2 石田さんたちは、グループの話し合いの中で、スピーチメモを使うことについてどのようなよさがあると考えていますか。（グループの話し合いの様子）の言葉を使って、四十文字以内で書きましょう。

※左の「話し合いの様子」を参考に、使っても構いません。回答は、解答用紙に書きましょう。

※右の枠から書きましょう。とらやうで行を取らないで、横で書きましょう。

### 【小学校A問題4二】 《グループの話合いを通して俳句のよさを見付ける問題》

4 中西さんのグループでは、月の様子をよんだ俳句を調べ、その中から選んだ好きな俳句について、学校で紹介しようとしています。次は、選んだ俳句についての「俳句カード」と好きな俳句を紹介するための「話し合いの様子」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【俳句カード】

ア 雲とけてくりりしたる月夜かな  
小林 一茶

（調べた内容）  
 季節：春とじて 季節：春  
 この俳句は、「雲い水が終わり、雪がとけ、春が来た。月もさよひで明るくかがやく夜だなあ」とよんでいるそうです。

イ ひやひやと月白しや秋の風  
上島 鬼貫

（調べた内容）  
 季節：秋の風 季節：秋  
 この俳句は、「秋の「こちよい風がふく中で、月の色もひんやりと白っぽいなあ」とよんでいるそうです。

【話し合いの様子】

北田 アの句は、「くりりしたる」の「くりり」がおもしろいね。声に出して読んでみるよ。（音感）  
 中西 リズムよく読めて、読むのが楽しくなるね。  
 「くりり」というのは、月の（A）を表しているのかな。春になったのがうれしいのかもしれない。

本問 イの句の「ひやひや」も「くりり」と似ているね。どちらにも出して読んで話合おうよ。俳句のよさがもっと伝わるといいよ。（音読）  
 「ひやひや」を声に出して読むと、ひんやりした感じが伝わりますよ。おもしろい感じがするね。  
 青木 そうか。ふいてくる風からも、見てる月からも、ひんやりした秋を感じているんだね。  
 中西 作者の伝えなかつたことって、今、青木さんが言ったことなのかもしれないね。このこともみんなに紹介しよう。

【本市正答率】55.6%（全国比▲1.4）  
 話合いを通して見付けたよさを選択できない生徒が44.4%いた。  
 日頃から目的に応じて話合い活動を行い、話合いの結果どのような結論や気付きがあったかをまとめさせる必要がある。

【本市正答率】65.7%（全国比▲3.5）  
 よさを二つ書くことが正答の条件であるが、片方しか書けない児童が56.7%いた。  
 日頃から自分の意見や考えをスピーチメモにまとめた上で話合い活動を行うなどして、定着を図る必要がある。

【中学校 A問題 9七2】

《古典には様々な種類の作品があることを知る問題》

七次は、兼好法師が書いた「徒然草」の「冒頭の部分」とその「現代語訳」です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

【冒頭の部分】

つれづれなるままに、日暮らし、暇にむかひて、心にうつりゆくよしなしごとを、そこはかとなく書きつくれば、あやしうこそものぐるほしけれ。

2 「徒然草」の作品の種類として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

1 随筆  
2 漢文  
3 物語  
4 和歌

【中学校 A問題 9六2】

《行書の特徴を理解する問題》

六 書写の時間に「和」という字を次のように行書で書きました。これを見て、あとの問いに答えなさい。

2 「和」の○で囲まれた部分の①②の特徴の組み合わせとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

1 ① 筆順の変化 ② 点画の連続  
2 ③ 点画の省略 ④ 直線的  
3 ⑤ 点画の省略 ⑥ 点画の連続  
4 ⑦ 筆順の変化 ⑧ 直線的

【本市正答率】58.9% (全国比▲4.8)

行書の特徴を組み合わせる問題であるが、「点画の省略」を「筆順の変化」とした生徒が21%いた。

行書を学習するときに、実際に書きながら、その特徴を実感し、どのような効果があるかを整理させる必要がある。

【本市正答率】72.4% (全国比▲6.1)

「徒然草」の作品の種類を選択する基本的な問題であるが、和歌と回答した生徒が14.6%いた。

古典を学習するときに、その種類についてしっかりと指導し、機会を捉えて復習を重ねることで定着させる必要がある。

4 児童・生徒質問紙との関連

小・中学校の、「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたり」する活動や、「うまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てを工夫」する活動について、全国との差が前年度より広がる傾向が見られた。特に、意見などをうまく伝えるための工夫において、小・中とも差が開いており、早急な改善が必要である。

5 改善のポイント・実践例

【小中共通】

- ・ 児童生徒の学力の実態把握や過去の分析を行い、定着の不十分な問題等に意図的に取り組ませる授業の実践。
- ・ 実生活の様々な場面を踏まえた言語活動を位置付ける授業の実践。
- ・ 問題解決型の課題を設定し、解決に向けて話し合い、表現する学習活動の実践。

【小学校】

- ・ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通して行う。
  - ・ 話し合いの進め方の検討や考えの形成、共有に関する指導事項を意識して話し合い活動を行う。
  - ・ 単元の最後で学習の成果を確認すると共に課題についても考えさせ、課題を見付けることが新たな学びにつながることを意識させる。
- 【中学校】
- ・ 古典学習における作品の種類など、基本的な事項については単元学習の中で繰り返し確認したり、小テストに出題したりするなどして、確実な定着を図る。
  - ・ 学習課題を解決するために、個人―グループ―全体―個人の流れを意識した話し合い活動を行う。また、発表の際には、自分の意見が伝わるには、どのような資料や文章、話の組み立てが有効なのかを常に意識させる。よい発表については、どのような工夫がなされていたのかを考えさせ、確認しながら実践的な力を育む。

質問事項	小学校		中学校	
	本市	全国比	本市	全国比
(74)国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか。	66.0 (65.3)	▲2.0 (▲1.7)	59.1 (61.7)	▲3.6 (▲0.5)
(75)国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるよう、話の組み立てなどを工夫していますか。	58.7 (61.5)	▲4.7 (▲2.7)	49.7 (50.9)	▲5.3 (▲6.8)

# 学力調査分析（国語、算数・数学）

## 2 調査の結果から見える本市算数・数学科教育の課題について

### 1 算数・数学科の調査結果

小学校では、A問題B問題ともに、全国の平均正答率を上回った。

中学校では、A問題B問題ともに、全国の平均正答率と同等であった。

平成28年度と比較すると、全国比は、どれも同じであった。

項	算 数		数 学	
	A	B	A	B
本市正答率	81	47	65	48
全国正答率	79	46	65	48
全国比 (H28)	+2 (+2)	+1 (+1)	±0 (±0)	±0 (±0)

### 2 本市算数・数学科の課題

- ・ 商を分数で表すこと、示された条件を理解し、他の場合に適用することに課題が見られた。
- ・ 図・式・表・グラフ等を観察して数量の関係を捉え、関連付けて考察すること、図形等の性質を活用して、説明したり、証明したりすることに課題が見られた。

【全国との比較】	
小学校・算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 商を分数で表すことができる。 A<math>\boxed{2}</math>(4)【▲4.5】</li> <li>・ 任意単位による測定について理解している。 A<math>\boxed{4}</math> 【▲1.5】</li> <li>・ 示された条件を基に、適切な式を立てることができる。 B<math>\boxed{1}</math>(1)【▲1.9】</li> </ul> <p>※ 資料から、二次元表の合計欄に入る数を求めることができる。 A<math>\boxed{4}</math>(1)【+12.6】</p>
中学校・数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 命題の仮定と結論を区別し、与えられた命題の仮定を読み取ることができる。 A<math>\boxed{8}</math> 【▲3.5】</li> <li>・ 与えられた一次関数の表において、変化の割合の意味を理解している。 A<math>\boxed{11}</math>(2)【▲4.1】</li> <li>・ 筋道を立てて考え、証明することができる。 B<math>\boxed{4}</math>(1)【▲2.7】</li> </ul> <p>※ 範囲の意味を理解している。 A<math>\boxed{14}</math>(1)【+10.4】</p>

### 3 課題を示す特徴的な問題

#### 【小学校6年A問題 $\boxed{2}$ 】(4)

商を分数で表すことができるかどうかをみる問題

**2**

次の計算をしましょう。

(4)  $5 \div 9$  (商を分数で表しましょう。)

---

【本市正答率】64.7%      [全国比▲4.5%]

被除数を分母に、除数を分子にしている誤答や、 $5 \div 9$ を約0.55や約0.56と捉えた後0.55や0.56を分数で表している誤答があり、整数の除法の結果は、分数を用いると常に一つの数として表すことができることの理解に課題がある。

#### 【小学校6年B問題 $\boxed{1}$ 】(1)

示された条件を基に、適切な式を立てることができるかどうかをみる問題

**1**

1から9までの数が書かれたカードが1枚ずつあります。

**1 2 3 4 5 6 7 8 9**

この中から2枚のカードを選んで、次のような2けたのひき算の答えについて考えます。

カードを使った2けたのひき算

選んだ2枚のカードを並べて、2けたの整数を2つ作り、大きい数から小さい数をひきます。

例えば、**1**と**9**を選んだ場合、**1****9**と並べると19がつくれます。**9****1**と並べると91がつくれます。

2けたのひき算の式  $91 - 19$

2けたのひき算の答え 72

選んだ2枚のカードに書かれた数どうしの差を、「カードの差」と呼ぶことにします。例えば、**1**と**9**の2枚のカードの差は8です。

あやかさんは、カードの差が1、2、3の場合について、すべての選び方で2けたのひき算をしました。

<b>カードの差が1の場合</b> $21 - 12 = 9$ $32 - 23 = 9$ $43 - 34 = 9$ $54 - 45 = 9$ $65 - 56 = 9$ $76 - 67 = 9$ $87 - 78 = 9$ $98 - 89 = 9$	<b>カードの差が2の場合</b> $31 - 13 = 18$ $42 - 24 = 18$ $53 - 35 = 18$ $64 - 46 = 18$ $75 - 57 = 18$ $86 - 68 = 18$ $97 - 79 = 18$	<b>カードの差が3の場合</b> $41 - 14 = 27$ $52 - 25 = 27$ $63 - 36 = 27$ $74 - 47 = 27$ $85 - 58 = 27$ $96 - 69 = 27$
---	---	---

カードの差が1、2、3の場合、2けたのひき算の答えは、それぞれ9、18、27になっています。

(1) カードの差が4の場合の、2けたのひき算の式を1つ書きましょう。また、答えも書きましょう。

---

【本市正答率】74.1%      [全国比▲1.9%]

カードを使った2けたのひき算の条件を理解することはできているが、「カードの差」が4になるカードを選ぶことができず、示された条件を基に、適切な式へ表現することが課題である。

【中学校3年A問題11(2)】

与えられた一次関数の表において、変化の割合の意味を理解しているかどうかを見る問題

11 次の(1)、(2)の各問いに答えなさい。  
 (2) 下のアからエまでの表は、 $y$ が $x$ の一次関数である関係を表しています。この中から、変化の割合が2であるものを1つ選びなさい。

ア

x	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
y	...	-2	-1	0	1	2	3	4	...

イ

x	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
y	...	7	5	3	1	-1	-3	-5	...

ウ

x	...	-3	-2	-1	0	1	2	3	...
y	...	-5	-3	-1	1	3	5	7	...

エ

x	...	-6	-4	-2	0	2	4	6	...
y	...	-2	-1	0	1	2	3	4	...

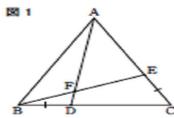
【本市正答率】51.9% [全国比▲4.1%]

二つの数量の変化や対応を調べることを通して、一次関数について考察することに課題がある。

【中学校3年B問題4(1)】

筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる問題

4 下の図1のように、正三角形ABCの辺BC、CA上にBD=CEとなる点D、Eをそれぞれとります。また、線分ADと線分BEの交点をFとします。ただし、点Dは点B、Cと、点Eは点C、Aと重ならないものとします。



次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

(1) 図1において $\triangle ABD = \triangle BCE$ を示し、それをもとにして、 $\angle BAD = \angle CBE$ であることが証明できます。 $\angle BAD = \angle CBE$ となることの証明を完成しなさい。

証明

$\triangle ABD$ と $\triangle BCE$ において、

合同な図形の対応する角は等しいから、  
 $\angle BAD = \angle CBE$

【本市正答率】41.4% [全国比▲2.7%]

証明するにあたり、図形の性質を三角形の合同条件などを基にして確かめ、根拠とするものを適切に選択しながら論理的に考察し、表現することに課題がある。

4 児童・生徒質問紙との関連

【児童・生徒質問紙の結果(%)】

(小83、中85) 算数・数学の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか。

(小92、中94) 調査問題(B問題)の解答時間は十分でしたか。

	番号	本市	全国	全国比 (H28)
算数	(83)	37.6	35.6	+2.0 (+1.6)
	(92)	27.3	27.7	▲0.4 (+1.6)
数学	(85)	15.6	16.5	▲0.9 (▲1.3)
	(94)	39.5	44.9	▲5.4 (▲6.6)

(本市児童・生徒の「当てはまる」割合)

「生活の中での活用」について、小学校は全国を2ポイント上回ったが、これは昨年度より0.4ポイント高い。中学校は全国を0.9ポイント下回っているが、これは昨年度より0.4ポイント高い。

「B問題の解答時間」について、小学校は全国を0.4ポイント下回ったが、これは昨年度より2ポイント低い。中学校は、全国に比べ時間が足りないと感じている割合が高かったが、昨年度よりは1.2ポイント高い。問題の内容や解決方法について見直し・振り返りの活動を通して、活用場面の想起や多様な解決方法の創造に取り組ませることについて全国との差が前年度より縮まる傾向がみられた。また、B問題の取組についてはまだ改善する必要がある。

5 授業改善のポイント

(1) 算数・数学共通

- 問題解決的な学習を単元に位置付け、解決の見直しをもたせ、自分で考え、その考えを周りに説明させる活動を重視し、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図る。特に、数や式に関する指導では、数量の関係を図に表したり、誤った考えについて考察し、間違いの根拠を説明させたりする中で、原理・法則に基づいた理解が深まるようにする。
- 図形にある特徴や性質等については、作図や観察等の活動を重視するとともに、話し合い活動等において、根拠を持って説明できるようにする。

(2) 算数

数と計算の指導において、「計算の意味」と「計算の仕方」を、図や数直線などを用いて関連付けながら考察し、説明できるようにする。また、児童自らが数量の関係を見出すことができる問題設定や見出した数量の関係が、ほかの場合でも成り立つかどうかを確かめるような学習活動の工夫が大切である。

(3) 数学

一次関数について、表における $x$ 、 $y$ の値の変化の様子を調べ、変化の割合を理解できるようにさせるなど、表、式、グラフを相互に関連付けて考えさせる学習活動が大切である。また、結論を導くためには何が分かればよいかを明らかにしたり、与えられた条件を整理したりするなどして、証明の必要性和意味及びその方法について理解させる指導の工夫が大切である。

# 児童生徒及び学校に対する質問紙調査〈抜粋〉

児童生徒及び学校に対する質問から特徴的なものを抜粋しました。(単位は%)  
(1～24:児童生徒の回答、25～51:学校の回答)

## 【児童生徒に対する質問紙調査結果〈抜粋〉】

### 家庭や社会への対応等に関すること

		本市	全国	
1	Q: 家の人(兄弟姉妹を除く)と学校での出来事について話しますか。 (H29.小Q24、中Q26) ※「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒の割合  ◆「家の人に学校での出来事について話している」と回答した児童生徒の割合は、全国に比べ高い。	小学校	80	78
		中学校	76	74
2	Q: 家の人(兄弟姉妹を除く)と将来のことについて話しますか。 (H29.小Q27、中Q29) ※「よく話す」「時々話す」と回答した児童生徒の割合  ◆「家の人に将来のことについて話している」と回答した児童生徒の割合は、全国に比べ高い。	小学校	55	50
		中学校	69	61
3	Q: 地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか。 (H29.小Q43、中Q45) ※「参加したことがある」と回答した児童生徒の割合  ◆「地域社会などでボランティア活動に参加した」と回答した児童生徒の割合は、全国に比べ高い。	小学校	55	35
		中学校	60	50
4	Q: 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか。 (H29.小Q41、中Q43) ※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合  ◆「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」と回答した児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。	小学校	63	64
		中学校	58	59
5	Q: 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。 (H29.小Q42、中Q44) ※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合  ◆「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」と回答した生徒の割合は、全国に比べ低い。	小学校	42	42
		中学校	29	33

## 自己肯定感等に関すること

		本市	全国	
6	Q：自分には、よいところがあると思いますか。(H29. Q6) ※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合  ◆「自分には、よいところがあると思う」と回答した児童生徒の割合は、全国とほぼ同じである。	小学校	77	78
		中学校	71	71
		本市	全国	
7	Q：先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。(H29. 小Q38、中Q40) ※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合  ◆「先生がよいところを認めてくれている」と思う生徒の割合は、全国に比べ低い。	小学校	85	86
		中学校	77	80
		本市	全国	
8	Q：難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか。(H29. Q5) ※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合  ◆「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している」と回答した児童生徒の割合は、全国に比べ低い。	小学校	75	77
		中学校	66	71
		本市	全国	
9	Q：将来の夢や目標を持っていますか。(H29. Q10) ※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合  ◆「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童の割合は、全国に比べ高い。	小学校	89	86
		中学校	72	71

## 家庭での生活や家庭学習に関すること

		本市	全国	
10	Q：学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾や家庭教師含む）。(H29. Q15) ※1時間以上勉強している児童生徒の割合  ◆「学校の授業以外に、1日あたり1時間以上勉強する」と回答している児童生徒の割合は、全国に比べ高い。	小学校	70	64
		中学校	79	70
		本市	全国	
11	Q：普段（月～金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか（携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く）。(H29. Q14) ※1時間以上している児童生徒の割合  ◆「携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットを一日あたり1時間以上使う」と回答している生徒の割合は、全国に比べ低い。	小学校	15	21
		中学校	39	50

## 読書等に関すること

		本市	全国	
12	Q：読書は好きですか。(H29.小Q72、中Q74) ※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合  ◆「読書は好き」と回答した児童生徒の割合は、全国に比べ高い。	小学校	78	74
		中学校	76	70
		本市	全国	
13	Q：新聞を読んでいますか。(H29.小Q45、中Q47) ※週に1～3回以上読んでいる児童生徒の割合  ◆「新聞を週1～3回以上読む」と回答した児童の割合は、全国に比べ低い。	小学校	18	21
		中学校	14	15

## 授業での学習活動等(児童生徒の発表等)に関すること

		本市	全国	
14	Q：これまでの授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか。(H29.小Q56、中Q58) ※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合  ◆「自分の考えを発表する機会が与えられていた」と回答した生徒の割合は全国に比べ低い。	小学校	85	85
		中学校	82	84
		本市	全国	
15	Q：これまでの授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか。(H29.小Q60、中Q62) ※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合  ◆「発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう工夫して発表していた」と回答した児童生徒の割合は全国に比べ低い。	小学校	60	65
		中学校	51	58
		本市	全国	
16	Q：これまでの授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか。(H29.小Q58、中Q60) ※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合  ◆「自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思う」と回答した児童の割合は、全国に比べ高く、生徒の割合は全国に比べ低い。	小学校	77	75
		中学校	66	71
		本市	全国	
17	Q：これまでに受けた授業の中で、目標(めあて・ねらい)が示されていたと思いますか。(H29.小Q61、中Q63) ※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合  ◆「これまでに受けた授業の中で、目標(めあて・ねらい)が示されていたと思う」と回答した児童生徒の割合は全国に比べ高い。	小学校	91	88
		中学校	94	88

## 授業の好き嫌い等に関すること

		本市		全国	
18	<p>Q：国語・算数・数学の勉強は好きですか。 (H29. 小国Q69、小算Q78、中国Q71、中数Q80) ※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合</p> <p>◆「算数・数学を好き」と回答した児童生徒の割合は全国に比べ高いが、国語については全国に比べ低い。</p>	国語	小学校	55	61
			中学校	59	61
		算数・数学	小学校	70	66
			中学校	58	55
19	<p>Q：国語・算数・数学の勉強は大切だと思いますか。 (H29. 小国Q70、小算Q79、中国Q72、中数Q81) ※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合</p> <p>◆「国語・算数の勉強が大切」と回答した児童生徒の割合は全国とほぼ同じであるが、数学については全国に比べ高い。</p>	国語	小学校	90	91
			中学校	89	89
		算数・数学	小学校	93	92
			中学校	84	81
20	<p>Q：国語・算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。(H29. 小国Q73、小算Q84、中国Q75、中数Q86) ※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合</p> <p>◆「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」と回答した児童生徒の割合は中学校国語・小学校算数で全国とほぼ同じであるが、小学校国語・中学校数学については全国に比べ高い。</p>	国語	小学校	86	88
			中学校	83	83
		算数・数学	小学校	89	89
			中学校	76	72

## 道徳に関すること

		本市		全国	
21	<p>Q：これまでに受けた道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思いますか。(H29. 小Q64、中Q66) ※「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の割合</p> <p>◆「これまでに受けた道徳の時間では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいたと思う」と回答した生徒の割合は、全国に比べ低い。</p>	小学校	80	79	
		中学校	71	76	

## 学級活動に関すること

		本市	全国	
22	<p>Q：学級会などの話し合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめていますか。 (H29. 小Q36、中Q38) ※「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した児童生徒の割合</p> <p>◆「学級会などの話し合いの活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめている」と回答した生徒の割合は、全国よりも低い。</p>	小学校	49	50
		中学校	39	41

## 部活動に関すること

		本市	全国	
23	<p>Q：学校の部活動に参加していますか。(H29. 中Q20) ※「運動部だけに参加している」「文化部だけに参加している」「両方に参加している」と回答した生徒の割合</p> <p>◆「部活動に参加している」と回答した生徒の割合は、全国と比べ低い。</p>	中学校	77	88
24	<p>Q：普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、部活動をしますか。 (H29. 中Q21)</p> <p>◆1日当たりどれくらいの時間、部活動をしますかの問いに本市で最も多かったのが、「2時間以上、3時間より少ない」で全国と同じである。</p>	本市	全国	
	3時間以上	6	12	
	2時間以上、3時間より少ない	42	44	
	1時間以上、2時間より少ない	29	28	

## 【学校質問紙調査結果〈抜粋〉】

### 授業でのICT活用に関すること

		本市	全国		
25	<p>Q：授業において、コンピュータ等を活用した授業を行いましたか。 (H29. 小国Q53、小算Q54、中国Q53、中数Q54) ※「週1回以上」「月1回以上」と回答した学校の割合 (週1回以上、活用している)</p> <p>◆「国語や算数・数学の授業でコンピュータ等を活用した授業を行った」と回答した学校の割合は、全国に比べ高い。</p>	国語	小学校	78	45
		国語	中学校	44	25
		算数・数学	小学校	86	55
			中学校	72	39

## 児童生徒の学習態度に関すること

		本市	全国	
26	Q：児童生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていますか。(H29.Q13) ※「そのとおりだと思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した学校の割合	小学校	94	91
	◆「授業中の私語が少なく落ち着いている」と回答した学校の割合は、全国に比べ高い。	中学校	100	95

## 学習指導に関すること(めあてや振り返り)

		本市	全国	
27	Q：該当の児童生徒に対して、前年度までに、授業の中で目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れましたか。(H29.Q33) ※「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	小学校	100	99
	◆「授業の目標（めあて・ねらい）を示す活動を計画的に取り入れた」と回答した学校の割合は、全国とほぼ同じである。	中学校	97	98
28	Q：該当の児童生徒に対して、前年度までに、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れましたか。(H29.Q34) ※「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	小学校	96	95
	◆「最後の振り返る活動を計画的に取り入れている」と回答した中学校の割合は、全国に比べ低い。	中学校	92	94

## 学習指導に関すること(表現力や思考力等を育てる指導)

		本市	全国	
29	Q：学級やグループの話合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか。(H29.Q15) ※「そのとおりだと思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した学校の割合	小学校	77	78
	◆「学級やグループの話合いなどの活動で、児童生徒は、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができている」と回答した中学校の割合は、全国に比べ低い。	中学校	69	76
30	Q：学級やグループの話合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができていると思いますか。(H29.Q16) ※「そのとおりだと思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した学校の割合	小学校	90	87
	◆「学級やグループの話合いなどの活動で、児童生徒は、相手の考えを最後まで聞くことができている」と回答した学校の割合は、全国に比べ高い。	中学校	92	89
31	Q：学級やグループの話合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。(H29.Q17) ※「そのとおりだと思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した学校の割合	小学校	69	72
	◆「学級やグループの話合いなどの活動で、児童生徒は、自分の考えを深めたり広げたりできている」と回答した学校の割合は、全国に比べ低い。	中学校	69	73

		本市	全国	
32	Q：様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか。 (H29. Q36) ※「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合  ◆「思考を深めたりするような発問や指導を行った」と回答した学校の割合は、小学校に全国に比べ高いが、中学校は低い。	小学校	98	96
		中学校	79	94
33	Q：授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか。(H29. Q41) ※「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合  ◆「課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を行った」と回答した学校の割合は、小学校は全国に比べ高いが、中学校は低い。	小学校	88	82
		中学校	72	75
34	Q：児童生徒に対する算数・数学の指導として、発展的な学習の指導を行いましたか。 (H29. Q71) ※「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合  ◆「算数・数学の指導として発展的な学習の指導を行った」と回答した学校の割合は、全国に比べ高い。	小学校	77	67
		中学校	74	71

### 学習指導に関すること(言語活動に関する研究や研修体制)

		本市	全国	
35	Q：指導計画について、言語活動に重点を置いて作成していますか。(H29. Q27) ※「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した学校の割合  ◆「指導計画について、言語活動に重点を置いて作成している」と回答した学校の割合は、小学校は全国に比べ高いが、中学校は低い。	小学校	96	94
		中学校	87	91
36	Q：各教科の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置づけましたか。 (H29. Q35) ※「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合  ◆「各教科の指導のねらいを明確にした上で、言語活動を適切に位置づけた」と回答した学校の割合は、全国に比べ低い。	小学校	91	93
		中学校	87	91
37	Q：学校全体の言語活動の実施状況や課題について、全教職員の間で話し合ったり、検討したりしていますか。(H29. 小Q107、中Q105) ※「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した学校の割合  ◆「学校全体で言語活動の実施状況や課題について全職員の間で話し合ったり、検討したりしている」と回答した学校の割合は、小学校は全国に比べ高いが、中学校は低い。	小学校	94	91
		中学校	74	83
38	Q：言語活動について、国語だけでなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか。 (H29. 小Q108、中Q106) ※「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した学校の割合  ◆「言語活動の取組を、国語以外の各教科等を通じて、学校全体として取り組んでいる」と回答した中学校の割合は、全国に比べ低い。	小学校	91	92
		中学校	82	89

## 学習指導に関すること(家庭学習)

		本市	全国	
39	<p>Q：保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか。(H29. 小Q94、中Q92)</p> <p>※「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合</p> <p>◆「保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけを行った」と回答した学校の割合は、全国に比べ高い。</p>	小学校	99	97
		中学校	92	88
40	<p>Q：家庭学習の与え方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか。(H29. 小Q95、中Q93)</p> <p>※「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合</p> <p>◆「家庭学習の与え方について、校内の教職員で共通理解を図った」と回答した小学校の割合は、全国に比べ高い。</p>	小学校	94	90
		中学校	82	82
41	<p>Q：家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えましたか。(H29. 小Q96、中Q94)</p> <p>※「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合</p> <p>◆「家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる宿題を与えた」と回答した学校の割合は、全国に比べ高い。</p>	小学校	92	83
		中学校	74	70
42	<p>Q：家庭学習の取組として、児童生徒に家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えるようにしましたか。(H29. 小Q97、中Q95)</p> <p>※「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合</p> <p>◆「保護者に対して児童生徒の家庭学習を促すような働きかけを行った」と回答した学校の割合は、全国に比べ高い。</p>	小学校	97	92
		中学校	90	88

## 道徳に関すること

		本市	全国	
43	<p>Q：道徳の時間において、児童生徒自らが考え、話し合う指導をしましたか。(H29. Q47)</p> <p>※「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合</p> <p>◆「道徳の時間において、児童生徒自らが考え、話し合う指導をした」と回答した中学校の割合は、全国に比べ低い。</p>	小学校	92	91
		中学校	82	90

## 学級経営に関すること

		本市	全国	
44	<p>Q：学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか。(H29. Q46)</p> <p>※「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合</p> <p>◆「学級全員で取り組んだり挑戦したりするテーマを与えた」と回答した中学校の割合は、全国に比べ低い。</p>	小学校	92	92
		中学校	74	87

## 研修や研究会に関すること

		本市	全国	
45	<p>Q：模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っていますか。 (H29. 小Q100、中Q98) ※「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した学校の割合</p> <p>◆「模擬授業や事例研究など、実践的な研修を行っている」と回答した中学校の割合は、全国に比べ低い。</p>	小学校	97	96
		中学校	79	90
本市 全国				
46	<p>Q：教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか。(H29. 小Q105、中Q103) ※「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した学校の割合</p> <p>◆「参加した研修の成果を積極的に反映させている」と回答した学校の割合は、全国に比べ低い。</p>	小学校	92	96
		中学校	72	93
本市 全国				
47	<p>Q：児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか。 (H29. 小Q103、中Q101) ※「よくしている」「どちらかといえば、している」と回答した学校の割合</p> <p>◆「いわゆるアクティブ・ラーニングの研修を行っている」と回答した中学校の割合は、全国に比べ低い。</p>	小学校	77	76
		中学校	49	69
本市 全国				
48	<p>Q：授業研究を伴う校内研修を前年度に何回実施しましたか。(H29. 小Q104、中Q102) ※「15回以上」「13回から14回」「11回から12回」と回答した学校の割合</p> <p>◆「年間11回以上、授業研究を伴う校内研修を実施した」と回答した学校の割合は、全国に比べ低い。</p>	小学校	15	41
		中学校	10	25

## 小・中学校の交流・連携に関すること

		本市	全国	
49	<p>Q：前年度までに、近隣等の小・中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか。(H29. 小Q77、中Q76) ※「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合</p> <p>◆「近隣等の小・中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行った」と回答した学校の割合は、全国と比べ低い。</p>	小学校	64	66
		中学校	69	75
本市 全国				
50	<p>Q：前年度までに、近隣等の小・中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか。 (H29. 小Q78、中Q77) ※「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合</p> <p>◆「近隣の小・中学校と教育課程に関する共通の取組を行った」と回答した学校の割合は、全国と比べ低い。</p>	小学校	46	51
		中学校	41	58
本市 全国				
51	<p>Q：平成28年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小・中学校と成果や課題を共有しましたか。(H29. 小Q79、中Q78) ※「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合</p> <p>◆「平成28年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小・中学校と成果や課題を共有した」と回答した学校の割合は、全国と比べ低い。</p>	小学校	32	53
		中学校	23	57